

TOKYO FUTURE VISION 東京未来ビジョン 懇談会通信

第 4 回
2017.8.3
東 京 都

発行：政策企画局計画部

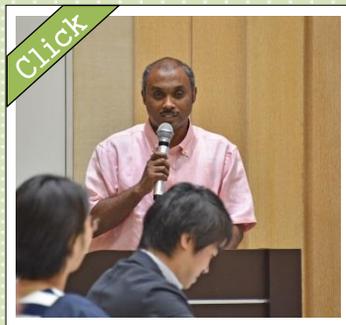
この懇談会は、都における政策の推進や政策形成等に新たな発想を取り入れるため、各界の第一線で活躍している新進気鋭の若手の方々と意見交換を行うことを目的に設置されました。

出席者：小池百合子(座長) 青木亮輔 伊勢谷友介 太田雄貴 菊地裕介 くわばたりえ
高校生内閣 宿輪理紗 高橋みなみ 田口亜希 田根剛 西田圭志 長谷部健
パクン 松澤香 メイミ モハメド・オマル・アブディン ※敬称略、五十音順

※ 画像をクリックすると動画が見られます

田口亜希氏のプレゼンテーション

障害の有無にかかわらず、お互いを尊重し、助け合い、思いやること、それが共生社会です。この実現に向け、「すべての障害者が働ける社会へ！」を提案します。そのためにハード面、ソフト面を整えることはもちろん、いつかは「法定雇用率をなくし、すべての障害者が納税者となる!!」社会をつくりたい。2050年には東京が世界で一番、例えば障害者が稼げるまち、活躍できる都市にしていきたいと思えます。



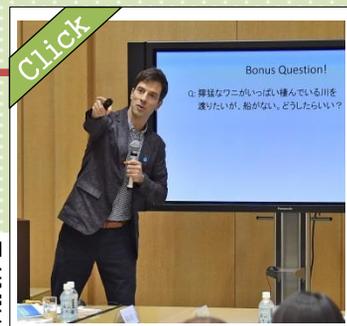
アブディン氏のプレゼンテーション

「多様性を認める」ということは、すごく消極的に聞こえる。むしろ進んで、「多様性である状況を求める」ことが大事です。そのために、「発展途上国などに東京の若者を丁稚奉公に出す」ことを提案します。厳しい環境に出ていくことで、人間力も育ていけるし、多様性を肌で感じた経験を持つ人材をどんどん育成して、東京が国際協力の人材を世界に輩出することは日本のソフトパワーにもつながる。



パクン氏のプレゼンテーション

東京は2050年、少子高齢化幸福先進都市になる。そのためには、少子高齢化という「危機」を、危険ではなく、機会と思う「思考、議論のダイバーシティ」が大事です。そのために、「頭を柔軟にして、ふだんから聞くような案ではなく、その先のとんでもない案を出し議論する」ことが重要。そうすれば、生活・働き方・まちづくり・文化的ダイバーシティなど、「ダイバーシティ満載の東京」が実現できると思えます。



マジョリティである人たちが変えないと、マイナーの人たちの環境は変わらない。多様性をつくることで、社会として強くなる。(伊勢谷氏)

多様性を認めるということは、経験の多様性ということがすごく必要。そういう色々な経験をできる環境を整えていくことが必要だと思う。(青木氏)

出席者の 発言

ベーシックインカムにより、働かないことが普通になり、違う価値を生み出すことが今の仕事に代わる。(長谷部氏)

色々な障害を持った方たちと交流したときに感じるのは、弱い存在ではないということ。その人の特性等、学ぶことがたくさんある。(メイミ氏)